

山形名産・紅花 今に咲かそう

無駄なく装飾品に

高校課程卒業後に学ぶ米沢工高専攻科（米沢市）の生徒が地元企業などと連携し、地域課題の解決に相次いで乗り出している。山形県名産の紅花を無駄なく使おうと考案した装飾品の制作をはじめ、コメの消費拡大や伝統工芸のPRなど多彩な活動が続く。

共に専攻科1年の戸屋康介さんと沢雅恭さん(19)が1月24日に米沢市内で発表したのは、色鮮やかな紅花が目を引くアクセサリー商品。地元の作家らの協力を得て、紅花の粉末を透明なレジン液の中で固めたピアスやイヤリングといった7種を作った。

2人は紅花を粉末化する工程

戸屋さんは「紅花を捨てるこ



米沢工高専攻科生、地元と連携

となく、さらにきれいに活用する方法があると思った。商品化できてうれしい」と話した。

昨年他にも、県産米の消費を広げようと市内企業による米粉の販売に協力し、ビジネスプランコンテストの東北大会で最優秀賞を受賞。さらに昨年末からフィンランドで開催されている米沢の伝統工芸「原方刺し子」の展示に合わせ、作品を紹介する現地語の字幕付き動画も作った。

地域とつながる一連の活動は戸屋さん、沢さんを含む4人が中心となり、授業の一環で取り組む。専攻科課程の2年間はデザインやシステムを学ぶ授業を横断的に使い、幅広いテーマを研究。事業のアイデアにとどまらず、実践まで進むのが特色の一つという。

担当する情野勝弘教諭(59)は「学生たちは各テーマに対して自ら到達目標を立て、達成のために取り組んでいる。今後もそれぞれの能力を生かす授業ができればいい」と言う。

米粉は食品開発販売crops(クropp、米沢市)の公式サイトから購入可能。アクセサリーは2月下旬以降、同社サイト上の案内から販売サイトへ進む形で購入できる。

①紅花の粉末やアクセサリーを作家らと共に発表する戸屋さん(右端)と沢さん(右から2人目) ②粉末にした紅花を使って作られたアクセサリー